

熱中症に注意してください

大館市では梅雨明け以降、最高気温が30度以上の真夏日が続き、熱中症により救急搬送された方は8月19日現在で28人に上り、8月に入ってから連日発生している状況です。

熱中症とは？

熱中症とは、室温や気温が高い中での作業や運動により、体内の水分や塩分（ナトリウム）などのバランスが崩れ、体温の調節機能が働かなくなり、体温上昇、めまい、体がだるい、ひどいときにはけいれんや意識の異常など、様々な症状をおこす病気です。家の中でじっとしていても室温や湿度が高いために、熱中症になる場合がありますので、注意が必要です。

熱中症予防のポイント！

- ・部屋の温度をこまめにチェック！（普段過ごす部屋には温度計を置くことをお奨めします）
- ・室温28℃を越えないように、エアコンや扇風機を上手に使いましょう！
- ・のどが渴いたと感じたら必ず水分補給！のどが渴かなくてもこまめに水分補給！
- ・外出の際は体をしめつけない涼しい服装で、日よけ対策も！
- ・無理をせず、適度に休憩を！
- ・日頃から栄養バランスの良い食事と体力づくりを！

こんな時はためらわずに救急車を呼びましょう。

- ・自分で水が飲めなかったり、脱力感や倦怠感が強く動けない時。
- ・反応がない（おかしい）、全身のけいれんがあるなどの症状を発見した時。

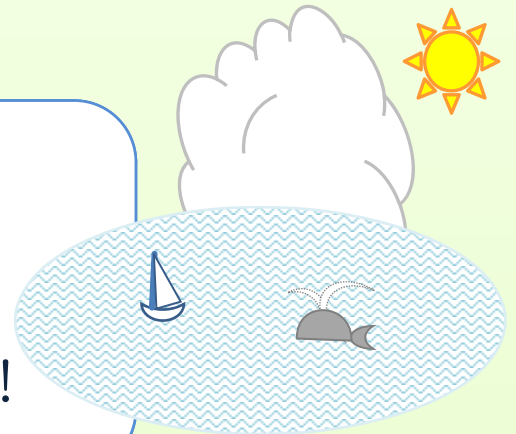
熱中症を知って、しっかり予防しましょう！



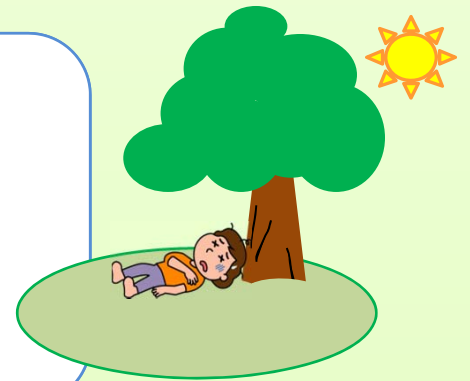
熱中症を予防して元気な夏を！



夏に向けて、熱中症になる人が増えてきます。
熱中症を知って、しっかり予防し、楽しい夏を過ごしましょう！



このリーフレットでは、熱中症の症状や応急手当を紹介しています。



救急車を呼んで、一刻も早く病院へ行くべき状態や症状についても紹介しています。
当てはまる場合は、ためらわずに119番しましょう。

※消防庁が作成した「救急受診ガイド」や、「救急車利用リーフレット」も合わせてご覧ください
(消防庁HP「<http://www.fdma.go.jp/>」の右側のバナーをクリック)



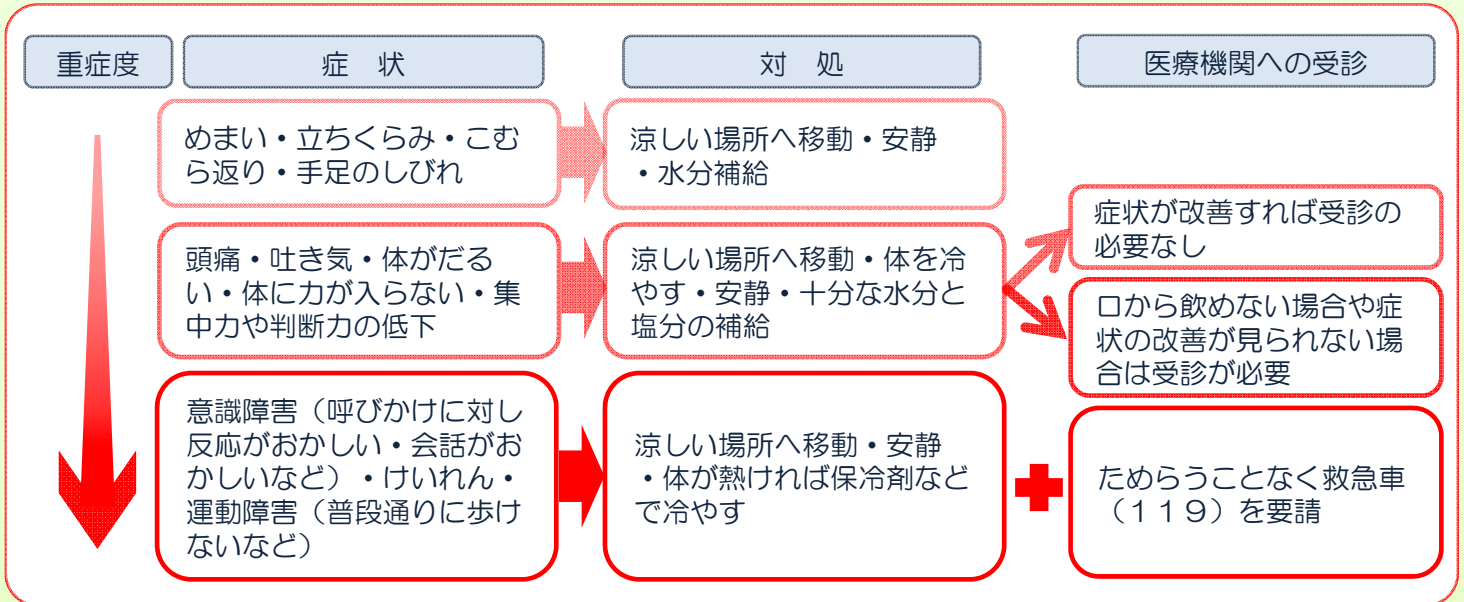
心臓や腎臓、その他持病をお持ちの方は、夏の過ごし方についてかかりつけの医師に相談し、上手にコントロールしましょう。

熱中症とは？

室温や気温が高い中で、体内の水分や塩分（ナトリウム）などのバランスが崩れ、体温の調節機能が働かなくなり、体温上昇、めまい、体のだるさ、ひどいときには、けいれんや意識の異常など、様々な障害をおこす症状のことです。

家の中でじっとしていても室温や湿度が高いために、体から熱が逃げにくく熱中症になる場合がありますので、注意が必要です。

熱中症の分類と対処方法



こんな時はためらわずに救急車を呼びましょう



- 自分で水が飲めなかったり、脱力感や倦怠感が強く、動けない場合は、ためらわずに救急車を呼んでください。
- 意識がない（おかしい）、全身のけいれんがあるなどの症状を発見された方は、ためらわずに救急車を呼んでください。

熱中症予防のポイント

- 😊 部屋の温度をこまめにチェック！
(普段過ごす部屋には温度計を置くことをお奨めします)
- 😊 室温28℃を超えないように、エアコンや扇風機を上手に使いましょう！
- 😊 のどが渇く前に水分補給！
- 😊 のどが渇かなくてもこまめに水分補給！
- 😊 外出の際は体をしめつけない涼しい服装で、日よけ対策も！
- 😊 無理をせず、適度に休憩を！
- 😊 日頃から栄養バランスの良い食事と体力づくりを！



子供の特徴

地面の照り返しにより、高い温度にさらされる



汗腺などが未熟

体温調節機能が未熟なため、**熱中症にかかりやすい**

保護者の方へ

- 👉 お子さんの様子を十分に観察しましょう！
- 👉 遊びの最中には、水分補給や休憩を！
- 👉 外出時の服装に注意し、帽子も忘れずに！
- 👉 日頃から栄養バランスのとれた食事や運動、遊びを通して暑さに負けない体づくりを実践しましょう！

高齢者の特徴

のどの渇きを感じにくい



暑さを感じにくい

汗をかきにくい

体温を下げるための体の反応が弱くなっており、**自覚がないのに熱中症になる危険がある**

熱中症にならないために

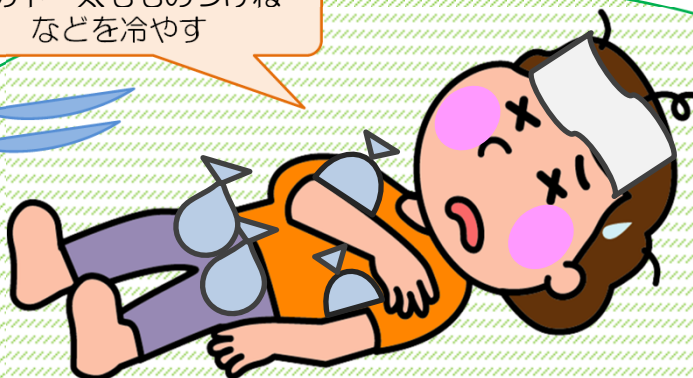
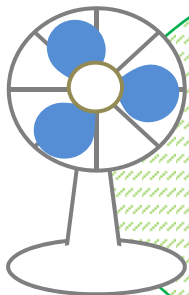
- 👉 室温をこまめにチェックし、エアコンや扇風機等を活用！
- 👉 のどが渇かなくても水分補給！
- 👉 調子が悪いと感じたら、家族や近くの人にそばにいてもらいましょう！

+ 熱中症の応急手当 +

- + 涼しい場所へ移動し、衣服を緩め、安静に寝かせる
- + エアコンをつける、扇風機・うちわなどで風をあて、体を冷やす



脇の下・太もものつけねなどを冷やす



飲めるようであれば水分を少しずつ頻回に取らせる



🚨 持病をお持ちの方やお子さんは、かかりつけの医師とあらかじめ相談し、熱中症対策についてアドバイスをもらっておきましょう



消防庁では、夏期（6月～9月）における熱中症による救急搬送の全国調査を実施しています。年代別では高齢者が4割を占めており、また、乳幼児と少年を合わせると1割以上となっています。熱中症による救急搬送者のうち、約4割の方が入院しています。

6月～9月の熱中症による救急搬送者の内訳（平成22年～平成26年合計）

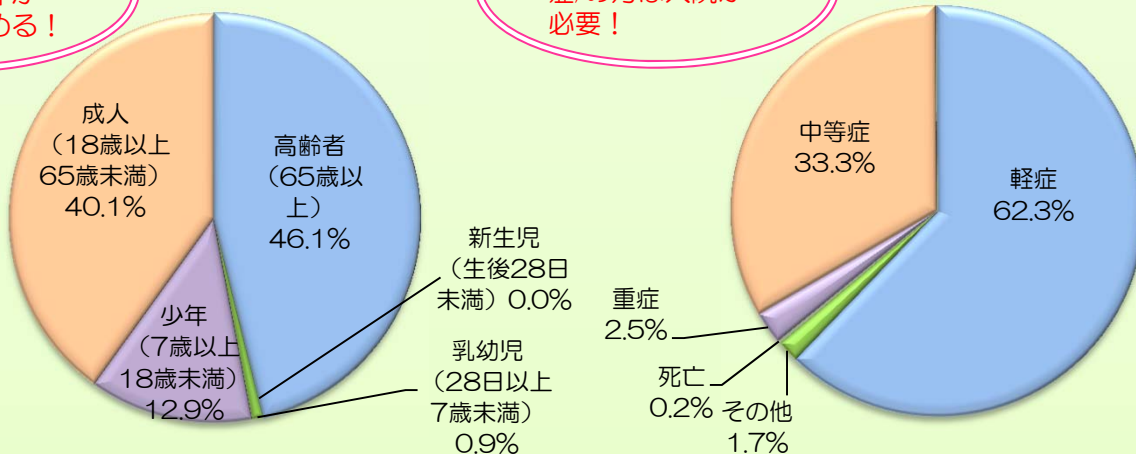
搬送人員計 247,066人

【年齢区分別】

【傷病程度別】

高齢者が約4割、
乳幼児と少年が
約1割を占める！

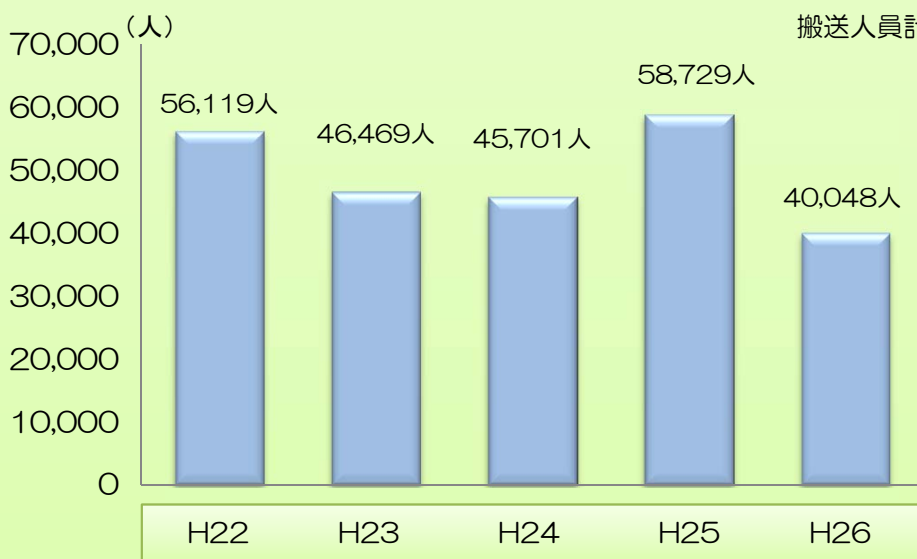
約4割(重症・中等
症)の方は入院が
必要！



熱中症により、毎年約4万人以上の方が救急搬送されています。熱中症による救急搬送者増加の要因として、気温や湿度の上昇が関係していることが分かっています。特に、梅雨明け前後の暑さには、最も注意が必要です！！

熱中症による救急搬送者数（平成22年～平成26年 6月～9月）

搬送人員計 247,066人



◆ 消防庁では、HP上で熱中症の救急搬送状況調査の速報を週ごとに公表しています。
URL : <http://www.fdma.go.jp/>

参考

環境省：「熱中症環境保健マニュアル」 http://www.env.go.jp/chemi/heat_stroke/manual.html